

「特集 グローバル・リーダーシップ」



日本アイ・ビー・エム株式会社
テクニカル・リーダーシップ担当
取締役執行役員
(ProVISIONエグゼクティブ・オーナー)

宇田 茂雄

日ごろよりProVISION誌のご愛読を賜り、厚く御礼を申し上げます。

ここ数年、経済においても、環境の変化においても、グローバル抜きには考えられないという傾向がますます強まっていると感じています。日々のニュースはもちろんのこと、経済産業省のインフラの戦略輸出室、クールジャパン室の設置に見られるように、今や日本は活性化のために国を挙げてグローバル化を推進しようとしています。国際政治においてもG20の世界となり、欧米主導から、さまざまな多くの国々で世界を考える時代が来ています。国境を越えた企業買収や国際会計基準の適用など、日本の独自仕様の経営が変革を迫られています。

昨年5月、IBMは世界60カ国1,500人以上の経営者の方々（日本171人）を対象に調査を実施しました。その結果からは、今日のような複雑で厳しい経済環境においても、それにうまく対応し、むしろそれを武器とすることで、比較的高い業績を達成している企業も存在していること、そしてこのような高業績企業は、3つの特徴を兼ね備えていることが見えてきました。それは、「組織に創造性を発揮させるリーダーシップ」「顧客接点を新たな発想で作り変える」「オペレーションに『巧さ』を追求する」です。

また、日本の経営者の多くが、経営に最も影響を与える要因に「グローバル化」を挙げ、新興国市場への経済力のシフトに向けての対応とそれを担う人材の育成に対して高い関心を示していることが分かりました。世界の厳しい競争に打ち勝ち、日本が成長を維持していくためには、「モノづくり」をはじめ事業のコアとなる得意分野をさらに伸ばすことはもちろんのこととして、先述の3つの特徴を、グローバルでスピーディーかつ確実に実現することこそが、日本企業へ要請されている命題ではないかと考えます。

— 日本競争力の再構築」によせて

IBMは、早くから国際企業（海外から輸入、海外へ輸出）、多国籍企業（海外への権限委譲）と経営形態をシフトさせ、1990年台半ば以降、財務、会計、調達、生産、販売、人事など、あらゆる機能を地球規模で最適化するGIE（Globally Integrated Enterprise）へと変革を実行してきました。経営資源を「標準化」し「統合」し、グローバルに最適化された経営基盤を構築してきたその経験を生かし、日本IBMでは2010年より日本のお客様のグローバル化に向けて、「グローバル・セールス（営業）」「グローバル・ピープル（人財）」「グローバル・アカウンティング（財務・経理）」「グローバルIT」「グローバル・ティーミング」「グローバル・アウトソーシング」「グローバル・チェーン」の7つの観点からご支援を開始しました。おかげさまで、多くのお客様にご好評をいただき、たくさんプロジェクトをご一緒に推進しております。

PROVISIONでは、今号を起点として、グローバルでリーダーシップを取るための企業の在り方、そのための人材、グローバル経営、財務システムに求められるものなど、IBMの培ってきた経験やお客様の先進的な事例を含め、多岐にわたる内容をお届けしてまいります。

さて、この場をお借りして、今年のIBMの取り組みについてご紹介させていただきます。2011年、日本IBMは、自らの変革経験をお客様価値に転換し、「Smarter Planet」の実現に向けて、クラウド・コンピューティング、Business Analytics & Optimization (BAO)、Smarter Citiesなどに引き続きフォーカスしながら、お客様や社会とのパートナーシップを進化、そして深化させる年と位置付けております。もはや1つの企業だけでの成長というものには限りがあります。ますます複雑化し今まで以上のスピードで変ぼうするビジネス環境の中で生き残っていくためには、パートナーシップを前提とした「協創」が不可欠であると考えています。皆さまと共

に、グローバル化という荒波にひるむことなく、新しい価値、競争力を創造して共に成長していきたいと願っております。

IBM Corporationは、今年創立100周年を迎えます。100年の間に、はかりやタイムレコーダーから始まり、汎用コンピューター、そしてサービス中心へとビジネス・モデルを変えてきましたが、技術に根差しているところは変わっておりません。IBM創業者トーマス・J・ワトソンにちなんで名付けられたコンピューター・システム、「Watson（ワトソン）」が、2月米国で放映される人気クイズ番組「Jeopardy!（ジョパディ!）」に出場し、同番組歴代出場者の内、素晴らしい成績を収めて話題を集めた2人のチャンピオンと対戦します。ワトソンを支える技術は、今後、さまざまな分野における課題の解決と発展の促進への応用が期待されます。例えば、ワトソンの技術を医療などの分野に応用することによって、重要な情報をタイムリーに医師に提供して診断・治療を支援することが可能となるでしょう。そして、この画期的な技術がイノベーションを生み出し、組織、経済、社会そして個人の活動をよりスマートにするために役立つという時代もそう遠くないと考えます。ぜひとも対戦にご注目ください。

2011年も、PROVISIONでは皆さまのお役に立てる記事を一層増やし、より強い信頼関係を深めてまいりたいと準備を進めております。皆さまにとりまして、より良きIBM、より良きPROVISIONとなるため、今後もしっかりとした^{きたん}激励・アドバイスなどを忘^{わす}れずなくわたしどもにお寄せいただけますよう、心よりお願い申し上げます。